

月	日	内 容	月	日	内 容		
4月	1	会計監査	10月	8	第二回全体会の開催 ①バスハイク実施報告 ②町ぐるみ運動会実施計画 ③正月行事実施計画 ④第二回委員研修会について		
	2	幹事会		2月	8	体育部会	
	17	体育部会			27	体育部会	
	23	総会の開催 ①令和6年度事業報告・決算報告 ②令和6年度監査報告 ③今期の体制(案) ④令和7年度事業計画(案) ⑤令和7年度予算(案)			31	町ぐるみ運動会 準備	
	23	広報部会			11月	3	町ぐるみ運動会の開催
	23	体育部会				3	町ぐるみ運動会反省会 体育部会
5月	13	第一回常任委員会の開催 ①バスハイクについて ②町ぐるみ運動会について ③有害書物改善事業について ④助成事業について	11月	11	④ 11 風作り講習会の開催(PTA対象)		
	13	体育部会		13	⑤ 13 第二回委員研修会の開催 迎賓館赤坂離宮 見学		
	28	体育部会		12月	22	浜田山小 風作り会の開催	
	29	高三小学校区 防犯パトロール実施			28	永福小学校区 防犯パトロール実施 体育部会	
6月	3	浜田山小学校区 防犯パトロール実施	12月	2	第四回常任委員会の開催 ①町ぐるみ運動会実施報告・会計報告 ②正月行事実施報告・計画 ③第二回委員研修会実施報告 ④防犯パトロール実施報告		
	4	第一回全体会の開催 ①防犯パトロール実施報告 ②バスハイク実施計画 ③町ぐるみ運動会について ④第二回委員研修会について ⑤第二回委員研修会の開催 ★育成委員会事業について 所属機関・団体の仕事内容と役割		2月	6	高三小 風作り会の開催(協力事業)	
	4	広報部会			15	浜田山小学校区 防犯パトロール実施	
	4	体育部会		16	下高井戸子供園 風作り会の開催		
7月	8	第二回常任委員会の開催 ①安全パトロール実施報告 ②バスハイク実施要項 ③町ぐるみ運動会について ④第二回委員研修会について ★バスハイク説明会	1月	10	風上け会の開催		
	12	バスハイクの開催 さがみ湖MORIMORI		27	幹事会 ①正月行事実施報告 ②今年度事業の振り返り ③次年度事業に向けて		
	28	体育部会		28	高井戸第三小学校区 防犯パトロール実施		
8月	28	体育部会	3月	3	第五回常任委員会の開催 ①正月行事実施報告 ②令和7年度事業報告・決算報告案 ③令和8年度事業計画・予算について ④令和8年度体制について		
	28	第三回常任委員会の開催 ①バスハイク実施報告 ②町ぐるみ運動会実施計画 ③正月行事実施計画 他		7月	7	向陽子どもまつり 向陽中学校(協力事業)	
9月	2	体育部会	8月		7	広報紙「すこやか」第77号発行	
	13	浜田山小 子供会の開催(協力事業)		RB.4	会計監査・幹事会		

役職	担当	機関・団体名	氏名	役職	機関・団体名	氏名
1	会長	地域協力者/保護司	井原 太一	35	委員	下高井戸下町会 富永 政男
2	副会長	地域協力者	村上 久美子	36	委員	上町観代会 白石 厚
3	副会長	地域協力者	行定 多喜子	37	委員	下高井戸仲町会 吉橋 修太郎
4	庶務	会計	諏訪 千枝	38	委員	下高井戸二・三丁目町会 小林 聖造
5	庶務	会計	日比 理子	39	委員	向陽町友会 阿部 恵
6	庶務	地域協力者	若井 比呂子	40	委員	浜田山町会 安藤 清隆
7	庶務	青少年委員	奥山 美奈子	41	委員	永福西町会 石井 昌宏
8	庶務	青少年委員	河井 貴子	42	委員	天神山町会 稲飯 早苗
9	庶務	青少年委員	瀧口 志保	43	委員	翠観和会 渡辺 義則
10	常任	監事	小川 和子	44	委員	下高井戸四丁目中央町会 鈴木 恵美子
11	常任	監事	田中 泰江	45	委員	下高井戸五丁目住宅自治会 宮崎 静子
12	常任	正月行事	主任児童委員 小越 美保	46	委員	下高井戸三丁目町会 下河内 隆士
13	常任	体育	主任児童委員 山下 衛	47	委員	さくら野町会 井村 真
14	常任	広報部長	地域協力者/民生児童委員 齋藤 佳子	48	委員	高井戸第三小学校校長 清水 明
15	常任	体育部長	地域協力者 広瀬 敦美	49	委員	永福小学校校長 難波 誠二
16	常任	体育副部長	地域協力者 飯塚 裕子	50	委員(体育)	子ども育てプラザ成田西 田中 慶美
17	常任	体育副部長	KSSC会長 瀧水 昇二郎	51	委員(体育)	子ども育てプラザ和泉 中島 あゆみ
18	常任	町会代表	永福町会 安藤 進	52	委員(体育)	民生児童委員 田辺 洋子
19	常任	正月行事	地域協力者 丸田 恵美子	53	委員(体育)	民生児童委員 福村 潤子
20	常任	体育	地域協力者 加治 香織	54	委員(体育)	地域協力者 細瀬 恵梨果
21	常任	広報	向陽中PTA 神岡 しのぶ	55	委員(体育)	地域協力者 高橋 美保
22	常任	体育	向陽中PTA 池田 恵美子	56	委員(体育)	地域協力者 長谷川 典子
23	常任	広報	高三小PTA 伊藤 洋子	57	委員(体育)	地域協力者 中島 征也
24	常任	体育	高三小PTA 須古 瑠衣	58	委員(体育)	地域協力者 山本 清彦
25	常任	正月行事	古橋 景子	59	委員(体育)	地域協力者 川上 忠
26	常任	広報	浜田山小PTA 飯島 純子	60	委員(正月行事)	地域協力者 中嶋 幸子
27	常任	体育	浜田山小PTA 島 祐子			
28	常任	体育	浜田山小PTA 陶山 愛美			
29	常任	広報	永福小PCA 大瀬 倫道			
30	常任	体育	地域協力者 堀川 季代			
31	常任	体育	区議会議員 木梨 盛祥			
32	常任	体育	向陽中学校校長 高津 憲			
33	常任	体育	浜田山小学校校長 緒方 康裕			
34	常任	体育	子ども育てプラザ下高井戸 村上 美佐			



令和8年3月  
発行/編集  
下高永福青少年育成委員会  
発行責任者  
会長 井原 太一



編集後記

会長の言葉にもありましたが、子どもたちが安心して暮らせる地域となるには、地域が繋がることが重要だと思います。今年は町ぐるみ運動会の競技「玉入れ」を町会長賞と位置づけ、優勝チームには町会長の皆さんから金メダルティッシュが授与されました。世代間の交流が薄れる中、こうした小さな交流の積み重ねが繋がりを深めるのではないのでしょうか?この一年大変お世話になりました。地域の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

永きにわたり、当会の活動に大いに尽力されました向陽スポーツ文化クラブ会長瀧水様が、令和7年8月に永眠されました。長年のご功勞に深く感謝いたしますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会長 挨拶



下高永福青少年育成委員会  
会長 井原 太一

「地域で子供たちを育てる」この言葉はまるで育成会(区・青少年育成委員会、都・青少年健全育成地区委員会)の代名詞のようにも聞こえます。ところで子供たちを取り巻く環境は、この70年近い育成会の歴史のなかで、ずいぶん変わって来ました。当初は、就学前の子供や義務教育を終えて社会に出た青少年が多くいましたが、今はおよそ9割の若者が大学や専門学校まで通い、乳児も保育園に通い、日中にブラブラしている?子供はあまり見かけない時代になりました。「地域で子供たちを育てる」私がこの言葉を改めて聞くようになったのは、約25年前小学校が完全週休2日制になった時でした。土曜日の行き場がなくなった子供たちを、学校の施設を使って、教員ではなく地域の人たちが受け入れました。休日出勤になるので教員は出て来られませんでした。その後も教員の仕事量は増えています。社会の発展にともない授業の内容はより複雑に多岐にわたるようになりました。少子化によるクラス数の減少は配置される教員数の減少を意味します。学校運営をはじめ、運動会や学芸会などの諸行事も、少なくなった教員でなんとか行わなければなりません。共稼ぎ家庭の激増は、PTA活動の後退や保護者の助け手を減らして行きました。学校も改めて地域の力を必要とする時代になりました。杉並区では地域の

力を活用する「学校支援本部」が全校に作られ、「学校運営協議会(CS)」では学校経営の一端を地域が担うようになりました。では、「地域で子供たちを育てる」とはどのようなことでしょうか。今は、子供たちの生活の場である「学校」「家庭」「地域」が力を合わせて子供たちを育てる、そのことが強調される時代になりました。勉強を教える(義務教育の)主体は「学校」です。家庭教育の主体は「家庭」です。では「地域」は学校以外のところで何をやるのでしょうか。私は、大切なことは子供を「育てられる」地域であること、だと思えました。まずは子供たちが安心して居られる場所、あちらこちらに知った顔がいる、大人たちが自分たちを見守ってくれている、受けとめてくれる、時には寄りそってくれる、しかってもくれる。町には風景や季節の行事や良い思い出がある、故郷だと思える...、そのような地域であることが大切だと思いました。もちろんこれは育成会だけで出来ることではありません。地域の皆様がつながることが大切です。今年度は町会の皆様にご協力をいただき、ともに輪をつなぎました。これからも地域の諸団体・皆様と連携を深めながら、「地域で子供たちを育てる」をより実効力のあるものと思っております。今後ともよろしく願い申し上げます。



## 町ぐるみ運動会

向陽中学校 校庭  
参加人数 601人

11月3日(祝・月)

今年で57回目となる町ぐるみ運動会、天候にも恵まれ、たくさんの方が参加してくださいました。中学生ボランティアも大勢参加し、おおいに力になってくれました。恒例のパン食い競争、未就学児のヨーイドンで全体が和み、玉入れに全力を注ぎ、借り人競争と力を合わせてゴールで団結し、対抗リレーで最高の盛り上がりとなりました。小さい子から大人まで積極的に競技に参加し、中学生が小さい子とふれあい、皆が笑顔いっぱいの楽しい運動会となりました。

(神岡 しのぶ)

## 令和7年度 事業報告

杉並区内には、17地区の青少年育成委員会があり、その構成委員は幅広い層の中から選ばれています。活動内容は、育成会ごとに違いはありますが、地域の青少年の健全育成を図ることを目的とした、地域社会に根差した自主団体です。



### 令和7年度総会

下高井戸区民集会所 2階  
参加人数 72人

4月23日(水)

地域のみなさまを初め、近隣の小・中学校の校長先生、PTA 役員のみなさま、子育てプラザのみなさま、そして、行政からも多くの皆さまが出席され、令和6年度総会が開催されました。議長選出後、令和6年度事業報告、決算報告、会計監査報告がありました。続いて、今期の体制案、令和7年度事業計画案、収支予算案が慎重審議され、すべての議案が報告通りに承認されました。その後、委員紹介が行われ、今後の予定などについても報告がありました。お忙しい中で参加いただきましたみなさま、ありがとうございました。

(齋藤 佳子)

### バスハイク

さがみ湖 MORIMOR  
参加人数 72人

7月12日(土)

育成会の人気イベントの「バスハイク」でさがみ湖 MORIMORI へ。当日は、朝7時15分に集合して、バス2台で出発！レジャーシーズンということもあり渋滞で到着時間が遅れ、急いでカレー作りへ。大人のサポートのもと子どもたちはまずは火おこしでマッチの使い方や薪を入れてうちわであおいで火力の調整を学びました。次にカレー作りでは具材を包丁でカットすることからはじまりカレーを仕上げました。飯盒でごはんを炊き、サラダとカレーライス盛りつけまでやりました。カレー作りを通してたくさんの体験をすることができ、頑張った作った昼食を食べる子どもたちの笑顔は最高でした。昼食後は各自時間まで自由行動でさがみ湖 MORIMORI でおもっきり遊び今年もたくさんの体験と学び、たのしい思い出がいっぱいのバスハイクでした。

(大瀬 倫道)

### 有害環境

地域パトロール  
参加人数 29人

5月29日(木)

今年は、高三小、浜小、永福小に別れ各小学校の通学路を中心に、町会の方々や高井戸警察の方と共にパトロールをしました。高三小区では、5月と1月に行いました。5月は日中に、通学路や危険箇所を回り、不審者などの情報を共有しました。1月は暗くなった時間帯に、学童から帰宅する子どもたちの様子を見守りつつ、暗い時間の通学路を確認して歩きました。冬場は特に学童からの帰宅時間には既に暗く、街灯だけでは不安になるような細い路地があることにも改めて気づき、地域の現状を知る有意義な時間となりました。

(伊藤 洋子)

### 委員研修

迎賓館赤坂離宮  
参加人数 19人

11月13日(木)

この秋に高市総理とトランプ大統領が首脳会談を行い話題になった「迎賓館赤坂離宮」にて研修を行いました。明治42年に東宮御所として建設、昭和23年に公館として使用後、昭和49年に今の迎賓館となり創建から100年を迎えた平成21年に本館、正門、噴水が国宝に指定される歴史ある建物です。目に映る全ての景色が雄大で煌びやかさがあって、日本にいて海外を感じる贅沢な空間でした。また、それとは対照的に日本庭園が美しい和風別館は心静まる空間とおもてなしの心を感じる職人の思いが詰まった建物でした。ツアーガイド付きの迎賓館巡りで外交とおもてなしの心を感じ、研修会を通して交流の輪を広げる大切さを改めて感じるいい学びとなりました。

(加治 香織)

### 凧づくり会

各小学校、子供園  
参加人数 169人

11月22日(土)～12月16日(火)

小学校にて凧づくり会を開催しました。子どもたちは和紙に思い思いの絵や文字を描き、オリジナルの凧づくりに挑戦しました。描き慣れない和紙や貼り合わせの作業に苦戦する場面も見られましたが、教えてもらいながら最後まで作り上げ、完成した凧に手に満足そうな表情を見せていました。

(飯島 純子)

### 凧あげ会

向陽中学校 校庭  
参加人数 254人

1月10日(土)

雲一つない晴天の中、凧あげ会が開催されました。10連凧を揚げるところから始まり、穏やかな風に乗って凧が一斉に空へ舞い上がる様子は、とても見事でした。その後は、各自が持参した凧揚げや、羽子板・こまなどの昔遊び、凧作りを体験しました。子どもたちは体や手を使いながら、笑顔で楽しむ姿が多く見られました。

(飯島 純子)

